

# コロナ看護 教訓訴え

県立大で  
シンポジウム 3病院の事例発表

新型コロナウイルスな人材の育成が大切」患者を受け入れた病院と指摘。横浜市立大付の看護態勢をテーマにしたシンポジウムが27日、県立大（総社市窪木）で開かれ、東京、神奈川、岡山の看護師3人が各医療機関での取り組みなどを発表した。

医療従事者や患者の大規模クラスター（感染者集団）が起き、病院機能が一時停止した永寿総合病院（東京）の武田聡子さんは教訓の一つとして「幅広い診療科に対応できるよう



岡山市立市民病院大規模クラスター（感染者集団）が起き、病院機能が一時停止した意していた新たな感染症発生時の対応マニュアルと、毎年の連絡・搬送のシミュレーション訓練ができたことを説明。

「感染症も災害として捉え、考えられる準備

新型コロナウイルス患者の受け入れ病院の看護態勢をテーマに開かれたシンポジウム

を十分にしておくべき「だ」と訴えた。

シンポは日本感染症学会学術集会（28日）だ。（高橋田大）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。